

持明院「はすの会」事務局

〒530-0001

大阪市北区梅田1-3-1

大阪駅前第一ビル9階

株式会社高野山寺月会

電話：06-6348-0530

FAX：06-6348-0170

メール：renraku@hasunokai.jp

HP：www.hasunokai.jp

# はすの会 会報 No.61

令和3年(2021年)2月20日発行  
平成8年(1996年)11月1日初版発行



## 東寺 教王護国寺

京都の一年は、「初弘法」に始まり「終い弘法」で終わる。と言われています。大師信仰の所産である毎月21日の縁日(弘法さん)が洛中をはじめ近隣の庶民に愛され、繁盛しているお寺が「東寺」です。

一方、正式な名称の「教王護国寺」に表わされているように真言宗最高の修法である後七日御修法(宮中の正月行事が終わった後の七日間、時の天皇と国家の安泰、世界の平和を祈願し、当初は宮中の真言院で営まれた)の寺院として著名です。

桓武天皇による平安遷都(七九四年)の後、国の鎮護、都の守護を願い、洛南の地「羅城門(羅生門)」の東西に建てられた官寺のひとつでありましたが、弘仁14年(八二三年)真言宗最大の庇護者である嵯峨天皇により開祖空海(弘

法大師)に下賜されました。

その目的は、先に高野山の開創を許され、長い年月を要する「未成仏」を説く旧来の仏教に対し、自らの修行により「仏」の力を顕現させることができるというまったく新しい思想「即身成仏」を実証し、国家社会に貢献されている弘法大師への篤い信頼の証しであり、ひいては国の安泰、民の幸福を願われる広い御心にありました。

弘法大師は敬愛する嵯峨天皇の熱望に応え、その造営にあたっては「密教」の教えに則り、堂塔伽藍を配置し、曼荼羅の世界を立像により「三次元で表現する」など独自性の高い寺院を建立し、教王護国寺と命名、鎮護国家の勅願寺とされました。また隣接地には、初めて私学「綜芸種智院」を創設、庶民教育の魁となりました。

今も『京都』を象徴する五重の塔をはじめ、密教美術・古文書の宝庫として、弘法大師の理想世界を表現している『東寺』は、大師信仰の総本山である高野山と車の両輪となり、数々の修法を通し、国家の安泰と世界平和を祈り続けています。



京都・東寺

羅城門

元々の読みは、呉音で「らじょうもん」、漢音で「らせいもん」であったとされ、中世頃からは「らしょう」の読みが一般化したものとされ、当字で「羅生門」とも表記されるようになった。

# 佛舍利宝塔 建立の主旨



持明院住職・竹内 崇雄

高野山はすの会の皆様、コロナ禍を初め昨年七月の豪雨による水害等ご回復されたでしょうか。心からお見舞い申し上げます。

さて宗祖弘法大師の聖地高野山奥之院に『佛舍利宝塔』が建立されて以来、およそ三十五年の月日が経ち、施主様の代替わりが多くなって参りました。それに伴ない、近頃会員やそのご家族の方々から『佛舍利宝塔』建立の由来や主旨等のご質問をいただきますので、このたび改めて会報誌上にその主旨を記載いたします。ご入会以来皆様のご先祖様が拝受されている功德を十分噛みしめてください。

## 趣意書

高祖弘法大師空海の教えは、高い理知と限りない慈しみの心によって、現実の生活に即し、人々の幸せを成し遂げることにあります。

今日、時移り世情が変わりまして、この教えは宗旨・宗派を超え全土に広く伝わり、人々の救いとなっています。

お釈迦様は、約二千五百年前にインド・カピラ国でご誕生になり、御年八十歳クシナラの場外、沙羅双樹の園で御入滅なさるまで、衆生救済のために広く全土にその教えを説き、その生涯を捧げられました。御入滅後、佛身を荼毘（火葬）に付し奉り、その舍利（ご遺骨）をハケ国に配分し、塔を建立してご供養しましたのが佛舍利信仰の来歴とされ、宝塔の起源とされています。

わが国におきましてはも仏教伝来の初めより佛舍利を尊崇し、弘法大師空海御入唐に際し八十粒を御請来され、京都・東寺に安置しました。

昭和五十九年（一九八四年）、高祖御入定千五十年御遠忌大法会に際しまして、高野山奥の院浄域に佛舎利の建立を発願し、持明院に古来より伝来の佛舎利を御請来、御奉納いたし、開眼法要をいたしました。

この度、佛舍利宝塔の功德を多くの方々から御拝受できますよう御希望もあり、当院でお申込者の方々の祖霊に永代供養をさせて頂くこととなりました。

「寺月会」にその募集をお願いし、お釈迦様の教えに報いて十万檀越の所願円満の招来を祈念いたします。

（合掌）

高野山真言宗  
別格本山 持明院  
大僧正 竹内崇雄

## 会員様へのお知らせ

昨年（令和二年）、十二月二十三日、持明院の竹内崇雄住職は高野山真言宗で最高位の大僧正の地位に昇進されましたので、皆様にご報告いたします。

大僧正専用の袈裟を着けての記念撮影



佛舍利宝塔前の墓碑



# はすの会・会員便り

このたびのご縁感謝申し上げます。

小津力 沙々

私事で誠に恐縮ですが、四〇五年前から終末後の事を考え始めて以来、やつと自分が納得できる場所を見つけ、今は落ち着いた気持ちです。

先日お話しましたように、五年前に主人は父祖の墓を建てました。主人は三男ですが、親孝行が出来て良かったと思います。

「貴方もそのお墓に入るのか？」と問いますと、「長男の家族がいるので、自分に入るつもりはない。自分は自然に還る方法で終わってもよい。」とのことでした。多分、水葬や樹木葬の事だと思えますが、私自身もそれでも良いと思っていました。

世界遺産で歴史上偉大なお大師様の聖地に、私のような一介の人

間も住めるなんて、露ほども思っていないかったです。

幼い頃から小さくても自分の家を持ちたいと願っていたので、今回安住地を見つけたように感じました。主人も是非そこに入りたいと申しますので、私もそれに応えたいと思います。

高野山をご案内の途上、ふと、こんな句が浮かびました。

幼き日の夢の続きが実現し

住処<sup>すまが</sup>手に触れ 大師を仰ぐ

秋深し高野の杜<sup>もり</sup>に終いの

住処<sup>すまが</sup>を見つけたり

戦後の貧しい時代、家も無く、大きくなったら必ず自分の表札のつく家を造りたい！そんな思いで定年までフルタイムで働きました。やつと自分の名のつく家を手に入れたのです。そんな思いの句です。(どうぞご笑覧ください。)

子供や孫達は五輪塔がもてた事をことのほか喜び、デザインをあ

れこれ考え始めたようです。

年が明けましたら、夫と長女家族と一緒に高野山に登り、一家安住の住処に触れ、満喫したいと思います。

これからは手続き等々、持明院様をはじめ寺月会の皆様のお世話になります。どうかよろしくお願い申し上げます。

## 編集部より

この小津力様は、純粋な心を持った、とても信仰心の厚い、家族思いの方です。

これからもはすの会スタッフは誠心誠意を持って、お手伝いさせていただきます。

## スタッフ便り

本年一月八日、はすの会スタッフは全員で、新年挨拶と会員の皆様ならびにご家族のご健勝、このコロナ禍からの回復を祈願するために持明院に登嶺いたしました。



持明院 玄関前にて



持明院 応接室にて

# 春季合同法要ご参列見合わせについて

会員の皆様方、昨年より続いて  
います新型コロナウイルス感染症の収束が  
なかなか見えてこない中、いかが  
お過ごしでしょうか。

今年に入り二度目の緊急事態宣  
言も発令されました。そのような  
ことから、この春季合同法要につ  
きましては、昨年の秋季合同法要  
と同じように皆様不参加の中で執  
り行うことを止むを得ず選択させ  
ていただきました。

会員の皆様は今年は何と不法要  
に参列できるのでは、と大変心待  
ちにしておられたと思います。は  
すの会事務局スタッフも皆様と同  
じ思いでおりました。

持明院・大僧正・竹内崇雄も皆  
様へご挨拶ができないことを大変  
残念に思い、新型コロナウイルスの  
早期収束と次回は安心して参列頂  
ける状況になっていることを願っ

ております。

はすの会としましては近い将来  
必ず今までと同じ様に皆様へ参列  
のもと合同法要を開催できるよう  
願っておりますので、それまでど  
うかご辛抱頂きたいと存じます。  
つきましては、

3月21日12時30分定期通り持明院  
本堂にてはすの会各家ご先祖様へ  
の法要は厳かに執り行いますが、  
持明院館内並びに本堂への立ち入  
りはご遠慮願います。

仏舍利宝塔永代供養墓のご参拝  
ご焼香は、終日対応致します。例年  
通りご参拝お待ち申し上げます。

春季法要時間帯に持明院にてご  
焼香を希望される会員様に於かれ  
ましては、本堂前(外)にて焼香頂  
けるよう、ご案内させていただきます。

またこの度の春季法要の模様は  
後日はすの会ホームページにて動  
画配信を予定していますので、ご  
高覧宜しくお願い致します。(掲載  
期間令和3年6月末日迄)

別格本山持明院はすの会事務局  
では、これからも会員様や高野山  
へお越し頂きます方に、安心して  
お参り頂けるよう努めて参ります  
ので、宜しくお願い申し上げます。



◆日時

令和3年3月21日(日)  
12時30分より

◆場所

持明院・本堂

◆ご参加

会員の皆様のご参加は  
ご遠慮ください。

(持明院の僧侶だけで執り行います)

●当日は仏舍利宝塔への参拝  
は可能です。

(10時～15時30分)

●例年ではご希望者には昼  
食も募っておりますが、  
今回もこのようなことで、  
昼食のサービスは取りやめ  
させていただきます。